

## 【河口湖ステラシアター】

## ヒアリング票

## 1. 劇場、音楽堂等の運営方針の明確化とそれに沿った事業の実施について

(1) 劇場、音楽堂等の運営にあたっては、運営方針(※)を明確化し、それに沿って事業を実施することが望ましいと考えますが、貴劇場においては運営方針をどのように定め、どのような内容で取り組まれていますか。また、その運営方針をどのような方法で県民や市民に伝えてありますか(例：ワークショップの開催など)。

※「運営方針」とは、例えば、世界に優れた日本の芸術作品を発信する拠点とすることや、全ての市民が日常的に実演芸術に触れられる機会を提供すること、子どもたちに本物の文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供することなどといった、各劇場、音楽堂等の目指すべき方向性や理念、使命を定めたものであって、事業計画等のベースとなる運営についての基本的考え方を指します(運営方針とあわせて、事業計画等の現物もご提供ください)。

運営方針は以下のとおりです。

● 富士河口湖町の音楽文化芸術振興に関する基本的な方針：

野外音楽堂ステラシアター(客席最大3000名収容)と室内ホール河口湖円形ホール(客席最大100名収容)で行われる音楽を中心とした芸術文化事業は、これまで培われた取り組みを踏まえて、今後は更に町民の文化的精神性の向上を促し、教育的な側面も強化しながら更なるオリジナルな創造のもと、積極的かつ戦略的に事業展開を行っていく。付随して町内の観光産業にも貢献する形を整えて発展させていく

● 目標：

- 1、オリジナルでより良い舞台芸術鑑賞の機会を提供する。
- 2、子供のための舞台鑑賞教室や交流事業を実施する。
- 3、地域住民の国際的な視野を広げるため、国際的な交流事業を実施する。
- 4、地域住民自ら企画を創造し作り上げる場を提供する。
- 5、企画事業を通じて、地域の諸産業や旅行エージェントとの連携を深め、総合的な町の活性化につなげる。

(2) 劇場、音楽堂等における運営方針の明確化を促進するにあたり、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

● 劇場や音楽堂に対して更にエネルギーを注ぐことにより、住民の文化芸術の鑑賞の場を創造、広げる役割のみならず、ホテル、レストランやレジャー施設など個人事業及び企業などとの連携による経済活動への貢献が劇場・音楽堂には役割が求め

られること、またそうしたことによる劇場や音楽堂が地域の中でも存在感を構築する努力を行政や、民間も巻き込み展開していくことの必要性。併せて、常に劇場や音楽堂側が先々の情報作りをリードする視点が必要であることも踏まえ、その上で劇場や音楽堂が、企業などの営業ニーズ作りに貢献できる視点もあるということも検討できると思われれます。

“文化が経済をリードする時代を作る拠点が劇場・音楽堂にある”

“地域を再生する役割が劇場・音楽堂にはある”という視点も強調することも検討できると思われれます。

●劇場・音楽堂の運営を担う文化ボランティアの枠組みを構築することより、高齢化社会への対応ができる場所の一つである視点も検討することもできると思われれます。例えば、もぎり、チラシ配布などもてなしの分野が高齢者の生きがいを作る場所にもなれる。しかし、ただのお手伝いではなく、役割を明確化し、また、相互が刺激し合う仕組みの構築などしっかりとした組織の中で展開することにより、劇場・音楽堂を通じて個々の存在が活かさせる仕組みができると思われれます。

## 2. 専門的な能力を有する人材の養成及び確保（配置）について

### 【専門人材の配置】

(1) 劇場、音楽堂等が十分に機能を発揮するためには、それぞれの設置目的や事業等に応じて、専門的な能力を有する人材（専門人材）を確保することが重要であると考えますが、現在、貴劇場にはどのような専門人材が配置されていますか。

河口湖ステラシアターに音楽プロデューサー（ポップス部門）平成7年～  
富士山河口湖音楽祭の第一回開催時から指揮者佐渡裕さんが監修を務める 平成  
14年～

(2) 現在、貴劇場において、専門人材の配置に関し、工夫されていることがあれば、記載してください。（採用形態、任期、専門分野、人材の発掘等）

音楽プロデューサー（ポップス部門：非常勤）単年度契約：更新制を取っているが劇場建設から5年間は方針作りや、ポップス部門の企画を踏まえて事業の柱を作るために関わっていただいた。基本はホールスタッフが地域に根差し取り組み実践していくための体制を整える後方支援の役割を持って、プロデューサーには対応していただいているので、オープン当初からプロデューサーと相談しながら、実務的にはホール企画担当が取りまとめる。

また、富士山河口湖音楽祭は、佐渡裕さんに監修していただいている。音楽的な監修のみならず、住民がいかに音楽に触れあっていくかその機会も作っていくようにしている。

(3) 現在、貴劇場が抱えている課題を解決するために必要な専門人材はどのようなものだと考えますか。(複数回答可)

(例：地域のニーズ把握のため→地域文化コーディネーター、  
公演の企画(買取)のため→アートマネジメント人材、  
劇場経営のため→外部資金獲得担当の人材 等)

地域文化コーディネーター、アートマネジメント、協賛などの獲得など、劇場が取り組まなければならない視点を一通り実践しており、現在は特に課題としてあげられる案件はございません。

(4) 劇場、音楽堂等の規模や文化芸術分野に応じ、必要となる専門人材に違いがあると考えますか。具体的にお答えください。

舞台の担い手であろうが、運営の担い手であろうが、だれもが親しめる場所が劇場・音楽堂にはあるという視点で、すべてのスタッフがそれぞれの専門的な知識も養う必要があることをベースに置きながらも、まずはすべての人を受け入れるもてなしの視点を持つということが、施設が親しまれる視点であると思われませんが、そのことを念頭にしながらも、施設が目指す方向性の違いや、また大都市部と地方での専門人材の捉え方、必要性に違いがあると思われまます。大都市部では国際的な芸術文化水準を高める視点が含まれると思われまます、地方部では住民を取りこみながら、文化を広げて、育成していく視点があると思われまますので、専門領域と視点に少し違いがあると思われまます。

(5) 現在、貴劇場において、専門人材の養成に関し、取り組んでいることがあれば、記載してください。貴劇場のスタッフの養成だけでなく、外部(他の劇場のスタッフ等)に対する研修等を行っている場合には、それについても記載してください。

●住民文化ボランティアの組織化、もてなしの専門家へ育成する目標の共有  
平成7年のホールオープン以来、住民の参画の一つとして、公演開催時などのもぎり、チラシ配布など運営の一部を住民ボランティアによって支えられている仕組みを作っており、また、一部は企画立案にも参画できる仕組み(富士山河口湖音楽祭実行委員会)も作っている。特に来場者をもてなす最前線に立つ、もぎりやチラシ配布、場内案内などのスタッフは、都内の大規模ホールで入口運営を司るレセプションの方々に講師としてホールにきていただき、企業の新人研修のようにあいさつ、振る舞い、そして具体的な作法などを学ぶ研修会を毎年シーズンはじめに実施している。また、年度末すべての事業が終了した後に、都内のコンサート会場にボランティアメンバーと一緒に足を運び、コンサートを鑑賞する機会を作る。その際は、チケットを実際持って入場するところから始まり、メインシーズンの自らの対

応した作法を確認するように、レセプションから、今度はもぎられ、チラシを配られ、場内を案内される一連の逆の動きを通じて、自ら気づかせる機会を作っており、素人であるボランティアを“もてなしの専門家”にしたい思いで実践しております。

●海外留学や研修などを通してマネジメントスタッフの育成、海外とのネットワークの構築

富士河口湖町が国内有数の観光地であることを踏まえ、また、ホールが約3000名収容の大規模野外音楽堂であることから、開設当初から「観光地におけるホールの在り方」をベースにホール運営を行ってきた。その中で、世界的にも有名な音楽文化観光都市オーストリア ウィーン市が、規模が大きくサイズが違っても、向っている方向性は同じであることから、文化庁芸術家在外研修員（アートマネジメント部門特別派遣80日間）として、ホール職員がウィーン市の主要ホールへ留学を行った。また、アメリカ合衆国ミズーリ州、ブランソン市もエンタテインメントが栄え、アーティストが地域に滞在し、常設劇場が域内に約60件あることから、地域におけるまちづくりの根幹に音楽を中心としたエンターテインメントがあり、このリサーチと新たな事業戦略を確立するために、ホール職員を海外視察へ派遣するなど、積極的に人材育成に取り組んでいる。

**（6）専門的な能力を有する人材の養成及び確保（配置）について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。**

国及び都道府県、また大都市部など広域的な視点を持って水準を上げる取り組みを担う劇場・音楽堂と、地方部で音楽を通じて住民の日々の生活に潤いを持たせ、文化芸術を浸透させていく両方の視点の中で、地域づくり、人づくり、ホールを通じて地域の生産性を高めるなどの視点を持って施設を運営する指揮者のような総合プロデューサーが必要かと思います。地域から選出でも良いし、業界の専門家でも良いと思いますが、地方のホールは広がったネットワークがなかなか構築できないところがあり、そうした人材を派遣させる事業、または人材を紹介し施設側で組み立てる事業を更に深めていくことも必要かと思われる。

**【大学等の教育機関との連携関連】**

（1）貴劇場の運営に当たって、大学等の教育機関と連携している取組はありますか。ある場合にはその状況及び課題、今後の進め方等（メリット・デメリットを含む）について記載してください。

富士山河口湖音楽祭の枠組みで、昭和音楽大学音楽学部アートマネジメントコースの学生を平成22年度から毎年、1～3名程度受け入れております。地域づくりにおけるホールの在り方など理論的な分野から、実際のホールコンサートやアウト

リーチコンサートなどの運営を文化ボランティアとも一緒になって活動していく。活動を通して、大学等で学ぶ理論を実際現場で出て実践していくことによって、文化ボランティアとの関わりなども生まれ、刺激ある機会になると思われます。一方受け入れる実行委員会や文化ボランティアにも新しい風も入る機会にもなり、相互にとって刺激ある機会となっている。

(2) このほか、大学等の教育機関との連携に係る取組で、今後新たに考えられるものがあれば記載してください。

●大学等のアートマネジメントコースなどで新たなカリキュラムの充実  
文化ボランティア論のような科目を強化していったら面白いのではないのでしょうか。住民ボランティアを次なるホールの担い手に育てる視点、ボランティアだからできる“もてなしのプロ”への育成。業界の専門分野とは違いますが、ホールのニーズをこれから新たに作っていく大きな柱になると思われますし、文化の担い手を住民に求めて育てる視点も今後、更に必要性が高まっていくものと思われます。併せて、文化ボランティアをコーディネートする指揮者のようなスタッフの育成も必要になってくると考えられます。

<カリキュラム案>

- 1、ホールとボランティアの関係を踏まえて地域の魅力づくり
- 2、ボランティアのこれからの必要性、役割
- 3、ボランティアによるホールのもてなし
- 4、これからの時代は地域の文化は文化ボランティアが支える など

(3) 大学の教育機関との連携について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

●インターンシップ事業の充実

- ① 国内の主要ホール及び地方ホールのみならず、海外のホールや歌劇場へも実務派遣する取り組みの検討
- ② 大学など教育機関で理論を学び、3，4年生で実践を学ぶカリキュラムが多い中で、3，4年生がホールなどへ実務研修を行っている後半の期間中に1年生の研修としても取り入れ、その指導を先に研修をスタートしている3，4年生に指導を担わせる機会を作る。それによって、文化のコーディネートをしながらか、将来の文化の担い手を作る伝え方なども研修のときに同時に養う機会を作れると良いのではと思われます。

### 3. 教育普及活動（鑑賞者拡大、地域住民の参画、事業の広報、子どもへの機会の提供等）の促進について

(1) 劇場、音楽堂等において行われる実演芸術に対する国民の関心と理解を深めるため、教育普及活動（鑑賞者拡大、地域住民の参画、事業の広報、子

どもへの機会の提供等)の実施に努めることが重要ですが、貴劇場において、教育普及活動について取り組んでいることはありますか。また、今後、どのような教育普及活動が必要だと考えますか。

●海外から演奏家を直接招聘して、学校ミニ演奏会などの開催

インターネットの進化から更に海外との距離感が縮まってきている中で、国際感覚を養う意味と、音楽を小さな時から深く触れ合う機会を作るために、海外からウィーンフィルメンバーなど直接演奏家を招聘して、学校などへ出張するアウトリーチコンサートを、ステラシアター（野外音楽堂）のシーズンが終わる秋や冬に開催する。また、この事業を実施するために「富士河口湖町子供のための音楽プロジェクト」を文化ボランティアを中心に結成して展開し、また、地元放送局などへもホール側から演奏家のスケジュールを渡し、他地域でもコンサートなどを開催するような形式を取っている。一連の流れは、各マスコミに取材してもらい、活動の様子をPRしている。

●夏の富士山河口湖音楽祭へ学校音楽鑑賞教室の開催

夏休み期間中にステラシアターで行われるオーケストラコンサート等に町内の小学生から中学生まで毎年参加する事業を各学校間とも連携している。

●ボランティアメンバーと一緒に新たなホールを作るプロジェクト

併せて、音楽になる木を育てるプロジェクトの実施

ステラシアターの横にあるカラ松林の下草などを整備し、そこを劇場はみんなで作るプロジェクトとして新規に開発する。併せて、会場で演奏会終了後に、どんぐりの木を植樹し、将来取れたどんぐりで楽器を作ろうという長いスパンでの視点を持ち家族で参加する企画も実施。

(2) 貴劇場において、教育普及活動を行うに当たっての課題があれば、記載してください。

特にありません。

(3) 劇場、音楽堂等は、個人の年齢や性別、個人を取り巻く社会的状況等に関係なく、全ての国民に開かれた場であることが重要ですが、貴劇場を通して、障害のある方やご高齢の方などに文化芸術に親しむ機会を提供する工夫をしている場合には、記載してください。（例：各施設での訪問コンサートの開催など）

●文化ボランティアとしての高齢者の参画

文化ボランティアメンバーの中に、60代、70代が多く、80代の方も元気に生き生きとして活動している。その活動の場所としてホールを機能させている。

●高齢者向けのコンサートを地元企業と連携して実施  
 地元企業が年金受給者を対象としたコンサートを実施している。

●障害者施設等との連携  
 コンサートの際に、福祉作業所で作るクッキーなどの販売をホールロビーを使って展開している。

(4) 教育普及活動について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

●新国立劇場での出演者による学校公演などアウトリーチ公演の開催  
 新国立劇場でのオペラなどの出演のために来日する演奏家に協力してもらい、負担のないところで地方にも一流の演奏家がホール公演のみならず、学校公演も行える仕組みを検討することはいかがでしょうか。新国立劇場の大きな活動が更に見える機会にもなろうかと思えます。

#### 4. 複数の劇場、音楽堂等の連携（共同制作、巡回公演、定期的情報交換等）の促進について

(1) 劇場、音楽堂等が他の劇場、音楽堂等や文化芸術団体等とネットワークを構築し、これを活用することは、劇場、音楽堂等の運営に当たり、多様な活動を行うための有効な方策のひとつですが、貴劇場において、他の劇場、音楽堂等や実演芸術団体等とのネットワークや連携に係る取組（フランチャイズ、レジデンス、芸術提携等）がありますか。ある場合にはその状況及び課題、今後の進め方等（メリット・デメリットを含む）について記載してください。また、ない場合には、他の劇場、音楽堂等や実演芸術団体等とネットワークの構築や連携に係る取組を実施することにメリットを感じるかなどのお考えを記載してください。

●兵庫県立芸術文化センター スーパーキッズ・オーケストラとの連携  
 芸術監督佐渡裕氏の提唱により、兵庫県立芸術文化センターのソフト先行事業として平成15年より始まり、音楽が大好きな小学生から高校生までの弦楽器によるオーケストラ。これまで関西方面で活躍していたが、平成19年からは富士山河口湖音楽祭に参加。特に専属契約などを行っているわけではありませんが、富士山河口湖音楽祭の枠組みで深く連携協力体制作りながら、少しずつ関係を強化し育てております。

(2) 貴劇場において、巡回公演や共同公演を行っていますか。行っている場合にはその状況及び課題、今後の進め方等（メリット・デメリットを含む）を記載してください。

ホールで育んでいるネットワークを踏まえ、海外からの演奏家を招聘することによって、学校公演やその後ホール公演なども実施している。併せて、県内のみならず、県外にあるホールとのネットワークを結び、演奏家を派遣するサポートも展開している。

(3) 貴劇場において、巡回公演や共同公演を行うに当たり、支障となっている事項を記載してください。

特にありません。

(4) 国立劇場又は新国立劇場との連携について、具体的な提案があれば記載してください。(例：企画制作のノウハウ、舞台技術等)

- 新国立劇場で制作された子供オペラなどを地方で公演ができるような仕組みの検討
- 新国立劇場でオペラ出演のため来日する演奏家のリサイタルを地方でも開催する機会の充実

(5) 他の劇場、音楽堂等、実演芸術団体等との連携（共同制作、巡回公演、定期的情報交換等）の促進について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

促進するための補助金など予算面の充実

## 5. 調査研究機能の向上について

(1) 貴劇場において、劇場、音楽堂等のより円滑な運営、機能の向上等に関し、どのような調査研究を行っていますか。また、今後、どのような調査研究を行うべきと考えますか。(例：今までに実施された公演の調査分析等)

- 専門調査機関によるホールのこれまでの方向性確認とそれに伴う事業実績評価  
平成7年から平成22年までのスパンのもので検証
- アンケートやチケット販売実績などを基にした各事業のマーケット調査と集計

今後は、地域経済への影響効果も調査していき、地域への施設の貢献度も評価の尺度として検討

(2) 調査研究機能の向上について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

- 地域経済への影響効果を把握できる地域からできるところは実施していくような環境を作ることを検討
- 各施設によって評価項目に違いがあると思いますので、評価項目の共有、評価の方法などマニュアル化の検討

## 6. 劇場、音楽堂等の経営の安定化について

(1) 貴劇場において、劇場、音楽堂等の安定的な経営を行うために、どのような取組を行っていますか。

- 民間協賛タイアップの確立  
ステラシアターと食品メーカーとで協賛タイアップの関係を構築している。7月から9月の週末に行われるコンサートなどを中心に、協賛による企画の本数の増加は、地域の生産性が高まることに直結している。

(2) 劇場、音楽堂等の経営の安定化について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

- 施設設置者側（県や市町村）の行き過ぎた経費削減の取り組みを再検討し、劇場音楽堂を通じて地域の文化芸術の向上だけではなく、生産性も上げられる視点を添えて施設の存在を有効に活かせる環境づくりを検討。
- 民間の資金支援の活かし方について、マーケットを意識したホール運営の環境づくりを検討

## 7. 劇場、音楽堂等の安全管理の向上について

(1) 貴劇場において、劇場、音楽堂等の安全管理について、どのような取組をしていますか。（例：定期的な避難訓練の実施、危機管理マニュアルの作成等）また、安全管理についてどのような点が不十分だと考えますか。

- 避難時の対応についてのホール及びボランティアスタッフの研修会の実施

(2) 劇場、音楽堂等の安全管理の向上について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

- 災害時の避難誘導方法やそれに伴う基本的な対応方法の研修や、備品など装備の設置及び定期的な確認作業のマニュアル化の検討

## 8. 要望や苦情等への対応向上について

(1) 貴劇場において、劇場、音楽堂等の運営に関する要望や苦情対応のために取り組んでいることはありますか。

●アンケートの回収やインターネット上のメールなどを通じて要望や苦情などを把握して対応

(2) 要望や苦情対応への対応向上について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

特にございません。

以上

(以下、地方公共団体、指定管理者のみ)

### 9. 事業評価における定量的評価と定性的評価とのバランス

(1) 毎年、指定管理に係る評価や施設の管理に係る評価等を行っていると思いますが、その際どのような評価項目を設けられていますか。定量的評価と定性的評価のバランスについて工夫されていることはありますか。

(2) どのような評価項目を設ければ、運営の実態をより適切に反映した評価が可能になると考えますか。

(3) 事業評価について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

### 10. 事業の質の向上につながる指定管理者制度の運用(地方公共団体の姿勢、指定管理期間の設定、地方公共団体と指定管理者との意思疎通)

(1) 指定管理者制度の運用に関し、指定管理者の選定及び指定管理者による運営(指定管理期間の設定等)について、どのような工夫をしていますか。

- 指定管理者の選定について
  
  - 指定管理者による運営について

(2) 指定管理者制度の運用について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

以上